

認知症コラム



介護事業所の従事者の方のお話 Yさん

介護福祉施設・小規模多機能型居宅介護での勤務を経験し、今はデイサービスで介護職員として勤務している介護士のYさんに、認知症に関する思いを投稿していただきました。

約10年間介護士として働いてきた経験から感じたことは、認知症の方を遠ざけたり、「認知症の人」とひとくくりにして関わったりするなど、認知症である本人そのものの存在、個性を無視するようなことは、してはいけないということです。

認知症の方は、出来ない事、わからない事が増え、言葉を失う事があっても、決して感情を失いません。認知症の人と関わる際に必要なことは、共感と理解だと思えます。嫌な事はなんで嫌なのか。険しい表情は何がそうさせるのか。それらを理解し、考えた上で、関わる事が重要だと思えます。

認知症の方と関わる際は、認知症の人の「過去」よりも、「今」を知る事が最も重要だと思えます。今、ご本人が大事にしている事を大切に、必要だと思われる事を足していく関わりが大事だと思えます。

介護士としては、認知症の人の、言葉にうまく出来ない思いを、すくいあげる事が、支える側がやらなければいけない事だと私は思います。介護士としてこの仕事につく上での励みは、ありがたい言葉に尽きます。感謝され、笑顔が向けられると疲れは吹き飛びます。相手が笑顔になると自分も自然と笑顔になれます。人と接する仕事だから得られる喜びです。自分が笑顔になると楽しい気持ちになります。それが長く働けられる魅力です。認知症の方たちの笑顔を引き出し、その人らしく生活が出来るように、これからもサポートしていきたいです。

認知症の人のサポートに資格がなければいけない、ということはないと思えます。地域の皆が、当たり前のように認知症の人のサポートが出来る世の中になって欲しいと願っています。

問い合わせ先:健康長寿課 介護予防係 (046-822-8135)